

# 鳥の渡りと生物多様性の保全

鳥たちの多くは、毎年春と秋、数千キロあるいは1万キロを超える長距離の季節移動、渡りをする。人は鳥のあとをついていくことができないので、渡り鳥がどこに行くのか、またどのようにして戻ってくるのかを知ることは通常できない。しかし近年、科学技術の進歩により、人工衛星を利用して渡り鳥の移動を追跡することが可能になった。



また最近では、日の入りと日の出時刻の地域差をもとに、位置や移動を推定する技術も進展してきた。これらにより、ツルやハクチョウなどの大型鳥類からスズメ大の鳥に至るまで、渡りの実態を調べることができている。本講演では、こうした最新の科学技術の利用によって明らかになったいろいろな鳥の渡り経路、移動様式、環境利用などについて紹介する。また、それらの研究成果が対象種の保全にどう生かされたのかについても述べる。紹介する中には、往復で2万数千キロ、東アジアのすべての国を一つずつめぐる鳥の渡り事例などもふくまれる。

2016年 1月18日(月) 16:30~18:00

会場：慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎1階シンポジウムスペース

※日吉駅から徒歩3分

対象：学生・教職員・一般

参加費：無料（申込不要）



講師：樋口 広芳

◇東京大学名誉教授・慶應義塾大学特任教授

1948年横浜生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士課程修了。米国ミシガン大学動物学博物館客員研究員、(財)日本野鳥の会・研究センター所長、東京大学大学院農学生命科学研究科教授を経て、現在、東京大学名誉教授、慶應義塾大学特任教授。専門は生態学、鳥類学、保全生物学。日本鳥学会元会長、The Society for Conservation Biology Asian Section 元会長。主著「鳥の生態と進化」(思索社)、「鳥たちの生態学」(朝日新聞)、「保全生物学」(編著、東京大学出版会)、「鳥たちの旅—渡り鳥の衛星追跡—」(NHK出版)、「生命(いのち)にぎわう青い星—生物の多様性と私たちのくらし—」(化学同人社)、「日本の鳥の世界」(平凡社)など。

天災・交通事情など予期せぬ事態により変更・中止となる場合がございます。その場合、下記のウェブサイトでお知らせしますので、事前にご確認下さい。

